

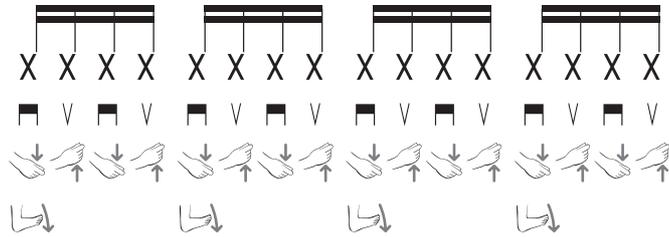
注意点1



常に16分でオルタネイトをキープさせる感覚を持つべし

このようなペンタ系フレーズを弾く際には、特にリズムに注意してもらいたい。リズムがハシってもモタってもカッコ悪いので、ジャストのタイミングを覚えよう。そのためには、常に16分音符で右手を振り続けることが重要だ(図1)。オルタネイト・ピッキングをキープし、ハンマリング&プリングはもちろん、半拍3連などが入り込んでも動じないリズム感(16ビートを守る感覚)を鍛えてほしい。この感覚を養うためには、テンポ90~120ぐらいの好きな曲をCDでかけ、足踏みをしながら、ブラッシング音を16分音符でオルタネイト・ピッキングし続ける練習をすると良い。ギターには、打楽器の要素もあることを覚えよう。

図1 16分のリズム・トレーニング



ブラッシング音を16分音符でオルタネイト・ピッキングし続ける。拍のアタマに足踏みを入れることを忘れずに。

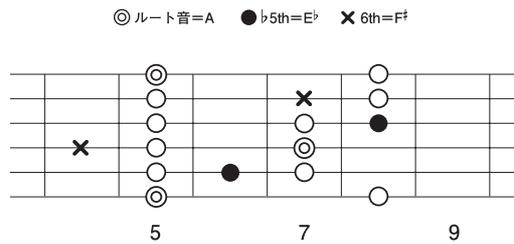
注意点2



ペンタをクールに変えるスパイス音“b5th”

ロックに欠かせないペンタトニック・スケールは、ペンタ以外のスパイス音を使うことによりブルース感を醸し出すことができる。そのスパイス音の代表的な音が“b5th”と“6th”だ(図2)。特に b5th は、ペンタ・フレーズを一瞬にしてクールにしてくれる。ただし“それなら、使いまくってやる!”となってはダメだ。この音はあくまでスパイスに過ぎない。そこで、b5th が絡んでいるフレーズをたくさん聴いたり、弾いたりすることで、スパイスを効果的に使うセンスを磨こう。少し聴いただけで、フレーズの中で鳴った b5th 音が判別できればベスト。

図2 Aブルース・ペンタトニック・スケールのスパイス音



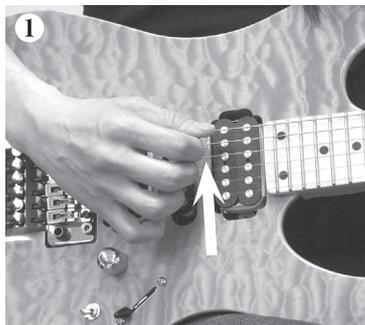
b5th音を効果的に使うことでブルージーな雰囲気が出せる。

注意点3



和音のピッキングは大きくラフに行なおう!

このフレーズは、16分のオルタネイト・ピッキングをキープし続けなければいけないので、2小節目4拍目の和音のピッキングには注意が必要だ。実際に弾く際には、単音を弾く時よりかなり大きめにピッキングすると良いだろう(写真①&②)。そうすることで、良い意味でラフなサウンドになりロック感が増すのだ。“ここだけ2本弦を弾くんだ”と思って硬くなってしまうと、リズムも固くなり、16ビートが乱れてしまうことがある。16ビートのノリを大事にしつつ、大きくピックを振るよう心がけよう。ただし、大きくラフにピッキングするためには、余弦のミュートはしっかりと行なうことが大切だ。



2&3弦7fのアップ・ピッキング。ピックの軌道が大きめになるように弾こう。余弦のミュートも忘れずに。



2&3弦5fのダウン・ピッキング。1弦の下まで振り抜くぐらいの勢いで行なうと良いだろう。